

仙台市GIGAスクールの方向性

これからの社会を、たくましくしなやかに生き抜く力を育む

- これからの高度に発展した情報化社会を、「たくましく」「しなやかに」生きるために、必要な資質・能力としての情報活用能力を育成します。
- 自らの学習を調整しながら粘り強く取り組む態度を育成し、多様な学びで児童生徒に豊かな創造性を育みます。

令和5～7年度（予定）

【SENDAI GIGA STEP 3】児童生徒が、自分の学びを広げるICT活用

- ① 学習eポータル、MEXCBT等による学習履歴データの蓄積・活用、先端技術の活用
- ② 社会教育・民間等、学校外の学びとの連携
- ③ 学習履歴を活かした指導の充実
- ④ 児童生徒の学びを蓄積したキャリア教育
- ⑤ 先端技術を活用した協働的な学び
- ⑥ 学校や他の施設・機関との連携
- ⑦ 教科を横断した探究的な学びに向けた教科横断的な取組

技術・時代の変化にあわせて進化・修正

令和4年度～

【SENDAI GIGA STEP 2】児童生徒が、ICTを「当たり前・日常的」に活用

- ① 【学校】端末、クラウドの日常利用化（授業と家庭学習等の連携）※学びの保障
- ② 【学校】情報活用能力を発揮しながら、豊かな創造性を育むための「探究的な学び」の推進
- ③ 【学校】自らの学びをより良くするための「個別最適な学び」と、「協働的な学び」の一体的な充実
- ④ 【学校】情報活用能力を系統的に育成するための、カリキュラム・マネジメントの推進
- ⑤ 【学校】プログラミング教育・STEAM教育・情報モラルや情報セキュリティ教育の推進
- ⑥ 【学校】指導者用・学習者用デジタル教科書の利活用
- ⑦ 【教育委員会】児童生徒の情報活用能力の実態把握と、学校現場に有用な情報の積極的な発信
- ⑧ 【教育委員会】デジタル教材等の利活用に関する情報発信・ICT支援員等による学校支援（デジタル教科書、デジタルドリル、みやぎ情報活用ノート、StuDX Style、副教材のデジタル化等）
- ⑨ 【教育委員会】MEXCBTや学習eポータルを利活用できるための環境整備や情報発信

教育課程の工夫や充実
情報活用能力の育成

令和3年度～

【SENDAI GIGA STEP 1】児童生徒が、ICT活用に慣れる

- ① 授業活用（まずは、触れる・使う）
- ② 日常での利用（教科以外）での活用
- ③ 端末持ち帰り練習（非常等の備え）
 - ・文字入力スキルの習得
 - ・カメラ機能の活用
 - ・クラウドサービスの基本的な使い方
 - ・教材・課題の配布・回収
 - ・動画や番組の視聴
 - ・アンケートの活用
 - ・学校行事での活用
 - ・オンライン授業の実施
 - ・家庭との連絡・連携
 - ・情報モラル等

学習指導要領が、目指す資質・能力を育成するため「4つの学び※1」を推進

児童生徒が、「全ての学習の基盤である情報活用能力」を身に付け、自分の力を発揮

サイト名	学年	教科	種別
仙台市立中央図書館	小学生	算数/国語	
仙台市立中央図書館	小学生	算数/国語	
仙台市立中央図書館	小学生	算数/国語	
仙台市立中央図書館	小学生	算数/国語	
仙台市立中央図書館	小学生	算数/国語	

教育データ活用



プログラミングSTEAM教材



学習者用デジタル教科書 VRコンテンツ



端末の持ち帰り

※1「4つの学び」・・・「個別最適な学び」「協働的な学び」「探究的な学び」「学びの保障」

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

主体的・対話的で深い学び

学習指導要領 総則 第3 教育課程の実施と学習評価

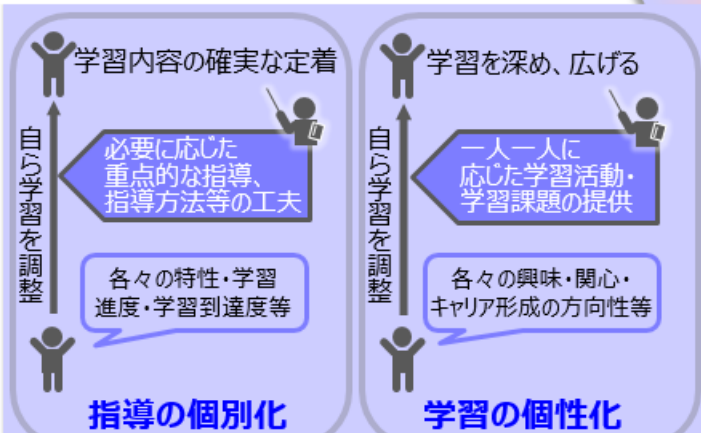
学習指導要領 総則 第4 児童(生徒)の発達の支援

授業改善

一体的に
充実

授業外の
学習の改善

資質・能力の育成



これからの学校には……一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

個別最適な学び（教師視点では「個に応じた指導」）

修得主義 ・個々人の学習状況に応じて学習内容を提供 ・一定の期間における個々人の学習の状況・成果を重視の考え方を生かす

協働的な学び

・集団に対して共通に教育を行う ・一定の期間の中で個々人の多様な成長を包含

履修主義
の考え方を生かす

平成29,30年改訂
学習指導要領 前文

※本資料は、「教育課程部会における審議のまとめ」（令和3年1月25日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）に基づき、概念を簡略化し図等として整理したものである。

補足資料2

みやぎ情報活用ノート（無償利用可）

みやぎの小学校、中学校、高等学校の児童生徒の情報活用能力の育成を目的とした、教材及び指導事例を紹介しているWebサイト

2.作ってみよう 「1が出た回数を調べるプログラム」

[STEP 1] サイコロを振るプログラムを作成。

[STEP 2] サイコロの1が出た「回数」を数えるプログラムに改良。

1.やってみよう あなたが、クラスの友達から言われて「いやだな」と感じる言葉を一つ選んでみましょう。

- 1 まじめだね
- 2 おとなしいね
- 3 いっしょうけんめいだね
- 4 こまやかで個性的だね
- 5 マイペースだね

学習eポータル（無償利用可）

文部科学省が提供するCBTシステム (MEXCBT:メクビット)を利用するときの入口、また、さまざまな教材やデジタル教科書等のツールとの連携が可能。



StuDX Style（無償利用可）

「StuDX Style」では、1人1台端末の更なる利活用の促進に向けて、全国の学校や自治体の端末の活用方法に関する優良事例等を数多く紹介しているWebサイト

MEXCBT【メクビット】（無償利用可）

児童生徒が学習端末を用いて、オンラインで問題演習等ができるシステム(問題やデータの相互運用が可能な国際標準規格に基づく汎用的なシステム)

【具体的な問題】

- 国や地方自治体等の公的機関等が作成した問題
(例) 全国学力・学習状況調査問題、高等学校卒業程度認定試験問題、自治体独自の学力調査問題、動画等を活用した「CBTならではの」問題など

【活用方法】

- 通常活用している学習端末を用いて、家庭からでも学校からでもアクセスが可能
- 2通りの活用方法が可能
 - ①一問一答形式
学年・教科を選び、一問一答形式で解答後に解説等が表示され学習する方式
 - ②複数問題解答形式
学年等を選び、何問かの束で解答する方式



- 選択式問題や一部短答式問題は自動採点